



若 あ ゆ



しあわせになあれ

校 長 米原 大司

11月に入り、気温の低下とともに市内の小・中学校では、インフルエンザが大流行しております。本校は2学級ほど学級閉鎖になりましたが、子どもたちは全体的には元気です。学校では、換気に気を付け生活しておりますが、御家庭での健康観察をよろしくお願いいたします。

さて、本校の校内音楽会は10月でしたが、全県的には11月に多くの学校や市町村の音楽会が開催されました。今年は市内の小中学校合同音楽会をはじめ、戸田市や狭山市、熊谷市などの音楽会に指導者や責任者として6日間参加してまいりました。その中で一番歌われていたのが、標題にある「しあわせになあれ」という合唱曲です。

この曲の作詞と作曲は、弓削田健介さんです。弓削田さんは、小中学生を対象とした合唱曲を数多く作曲しているほか、日本全国をキャンピングカーで回りながら、学校公演「いのちと夢のコンサート」を2,000回以上開催しています。その他にも南アフリカに移動図書館を贈るプロジェクトや、熊本や能登などで被災された方々を応援するプロジェクトを行うなど、その社会貢献活動が注目されています。世間からは、「放浪の合唱作曲家」と呼ばれています。（弓削田健介公式プロフィールから要約）

「しあわせになあれ」は、毛里 武さんの詩「名前は祈り」との出会いがきっかけで生まれました。そこには、ほっこりするエピソードがあるのですが、興味のある方は、弓削田さんのHPを御覧ください。この曲は、詩も旋律もピアノ伴奏も、全てが心に響きます。紙面の都合で、1番の歌詞のみ紹介します。

～ 目を閉じて 繰り返す あなたがくれた名前
懐かしい 声ができる 愛してくれた人たち
光あふれた朝に 願いをこめて
あなたが授けてくれた 愛の唄が聴こえる
しあわせになあれ しあわせになあれ しあわせになあれ
僕の名前から 消えないメロディー ～



弓削田さんと校長室で

実は、弓削田さんですが、何と9月に岸町小へ来ていただきました。能登の震災支援の「フェニックス・プロジェクト」で旅している道中でした。いらっしゃる前日に、知り合いの音楽の先生から「弓削田さんがお会いしたいようです」と突然の連絡で実現しました。来校が放課後でしたので、子どもたちとの対面はかないませんでした。未来くるワークに来ていた白幡中の生徒3人と一緒にいる校長室で、この曲を歌っていただきました。

(次頁につづく)

私事で恐縮ですが、昨年にも母を亡くしました。家族で音楽葬をしたこともあり、葬儀を滞りなく行わなければならない重圧からか、涙が出ることもなく葬儀が終わり、それから取り乱すことなく過ごしてまいりました。それが、弓削田さんの歌を聴いた途端に、涙が止めどもなく溢れ出てきました。私の心の中で「だいちゃん、だいちゃん」という亡き母の声がしたような気がします。音楽が人の心を揺さぶる、すてきな力があることを体感した瞬間でした。

私が指導している地域の児童合唱団でも、3月のイベントに向けこの曲を練習しています。ふだんは自信なさそうに歌っている小学2年生の女の子が、この曲を歌った初日に私のところに話しかけに来ました。「先生。飼っていたヤモリが死んじゃったんだけど、天国で幸せになりますようにって歌ったの。」いつもは控えめに歌っているその子は、今でもこの曲を歌う時には、人一倍しっかりと歌っています。この曲には、言葉では説明できないような人を動かす力があります。

この「しあわせになあれ」は、絵本（瑞雲舎）にもなっています。今年の見聞月間の校長からの推薦の本として、子どもたちに紹介しました。その巻末にQRコードがついていて、この歌を聴くことができます。

本校の子どもたちにも、親御さんの「しあわせになあれ」という思いが込められています。私たち教職員もそのことを心に留め、御家庭と一緒に子どもたちの幸せのために努力をしてまいります。

結びに、絵本「しあわせになあれ」の巻末にある弓削田さんの言葉を贈ります。

～ 一人に一つずつ持っている「名前」という宝物を、
みんなが大切に出来ますように。

すべての人の「名前」にこめられた
「しあわせになあれ」という願い事がかないますように。 ～

